

2026年度 特定非営利活動たんぽぽ会 事業計画書

(2026年4月1日～2027年3月31日)

法人本部

本会は、「子どもたちに対して、集団の中で心身ともに健やかに成長することができる保育事業を行うとともに、産休明けから保育環境を整備することにより保護者の就労を保障し、子どもの健全育成と地域福祉の向上に寄与すること」を目的としています。この目的の達成に向け、保育環境の整備と充実を図るとともに、関係機関・団体との連携を深め、健全な施設運営を推進します。

2026年度は、2018年度の認可移行後初めて全クラスで定員が充足し、定員どおり60人で新年度をスタートします。年度限定保育事業については、1歳児1人分の受入枠を設けていますが、年度当初は受け入れを行わず、保育環境が整った段階で入園希望者がいる場合に受け入れることとします。

保育士の採用をめぐっては、有効求人倍率が3.8倍と全職種平均の約3倍に達しており、多くの保育施設で有料職業紹介事業者を通じた採用が増加しています。本会においても現在、正規職員1人が欠員となっており、採用活動を進めていますが採用には至っていません。職員配置については、横浜市の配置基準を常勤換算で5人上回る体制となっていますが、子ども一人ひとりに寄り添った保育を実践するためにも、欠員補充は重要な課題であり、引き続き採用活動の強化に取り組めます。

子どもを取り巻く状況を見ると、国勢調査では横浜市も人口減少局面に入りました。また、育児休業取得者の増加や出生数の減少により、0歳児の保育所利用は今後も減少することが見込まれます。さらに、近年は多くの幼稚園で預かり保育が実施されるようになり、3歳児進級時に幼稚園へ移行する子どもも増加しています。

定員の充足は安定的な施設運営に不可欠です。地域における子育て支援活動を充実させながら利用者確保に努めるとともに、将来的な定員構成のあり方について検討を進めます。また、安定的な運営を支えるため、自治体による保育制度のさらなる充実を求めています。

三ツ境たんぽぽ保育園

核家族化の進行やひとり親家庭の増加など、子どもと保護者を取り巻く社会環境は大きく変化しており、多様な子育てニーズや悩みに応える保育が求められています。

また、保育現場では子どもの事故や不適切保育、発達支援の課題などが社会問題となっています。安全で質の高い保育を実現するためには、施設運営の改善努力とともに十分な保育士配置が不可欠です。保育制度の充実を求める取組を進めながら、子どもの最善の利益を保障する保育を実践します。

【重点目標】

- 子どもの権利を尊重し、一人ひとりの成長と発達に寄り添った保育を進めます。
- 各年齢のクラスづくりを大切にするとともに、クラスの枠を超えて園全体の子どもに責任を持てる職員集団をめざし、保育の力量向上に努めます。
- 保護者との信頼関係を大切にし、ともに育ち合う関係を築きます。また、保護者の意見や要望を聞く機会を充実させ、保育や園運営に反映します。

【概要】

(1) 定員

60名

年度限定保育定員 1歳児1名

(2) 休園日

日曜日、祝日、12月29日～1月3日

(3) 職員体制

○園長1人

○事務長1人

○主任保育士1人

○保育リーダー2人

○給食リーダー1人

- ・保育士23人(主任、保育リーダー含む)
- ・管理栄養士1人(給食リーダー兼任)
- ・栄養士1人
- ・調理師1人
- ・調理員3人
- ・保育補助2人
- ・保育業務支援員2人

(4) 保育方針

- 子どもたちが集団の中で心身ともに健やかに成長する保育
- 保護者の就労を保障できる保育体制
- 職員がいきいきと働き続けられる労働環境づくり
- 地域の保育要求に応える活動
- 地域社会の一員として、生活環境の向上に役立つ施設づくり
- 地域の保育センターとしての役割を果たす、地域に根差した保育活動

(5) 保育内容

- 食育を重視し、安全で手作りの給食とおやつを提供します。
- 近隣公園や矢指市民の森などを活用し、年齢に応じた充実した園外保育を実施し

ます。

○すべての職員がチームとして、一人ひとりの子どもの発達を保障するきめ細かな保育を実践します。

○保育園で用意した布おむつを使用し、こまめなおむつ交換を通して子どもと保育士のコミュニケーションを深め、排泄の自立を促します。

○のびのびとした遊びと子ども同士の豊かな関わりの中で、健康な身体と豊かな創造力を育みます。

(6) 1日の保育

○各クラスでは、月齢や発達に応じたきめ細かな保育計画を作成し、一人ひとりに合わせた保育を実施します。

○午前7時から朝の延長保育を開始します。午前は園庭や近隣の公園、森などを活用して戸外活動を中心に過ごし、自然との触れ合いを大切にします。

○給食とおやつは、栄養士が旬の食材を取り入れた和食中心の献立を作成し提供します。昼食後は絵本の読み聞かせなどを行い、安心して入眠できるよう保育士が寄り添います。

○午後は園庭遊びや自由遊びなどと合わせ、幼児クラスは大野公園などに出かけての園外遊びも取り入れて思い切り体を動かします。

生活リズムは子どもの成長・発達にとって大切な基盤です。十分に眠り、よく食べ、思いきり遊ぶ生活を大切にしながら、仲間との経験を積み重ね、自ら生活や遊びを創り出す力を育てます。

(7) 年間行事

○4月に入園式・進級式を実施します。

○各クラス懇談会を5月、9月、3月に開催し、家庭と保育園の様子を伝え合います。

○毎月誕生日会を実施し、子どもの成長を保護者とともに祝いします。

○園内菜園での収穫活動を行うほか、近郊農家の協力を得て、4月のタケノコ掘り、6月のじゃがいも掘り、10月のさつまいも掘り、12月の大根抜きなど、四季を通じた収穫体験を行います。

○じゃがいも掘りとさつまいも掘りは、地域の子どもたちとの交流保育として実施します。

○初夏からは泥んこ遊びや水遊び、プール遊びを十分に楽しみます。

○6月のたんぽぽまつり、8月の境友自治会夏祭り、10月の運動会などを通して、保護者や地域の方々との交流を深めます。

○12月のお楽しみ会、1月のお正月あそぼう会、2月の節分など季節の行事を大切にします。

○3月には卒園式および成長を祝う会を実施します。

年間を通じて、集団生活の中での成長や心の育ち、意欲や取組の過程を大切にしながら、一人ひとりの発達を確認し、健やかな成長を支える保育を進めます。

(8) 施設整備

保育室のエアコン更新工事を実施します。

(9) 苦情・相談対応

保護者からの相談や苦情の受付は主任保育士を中心に行い、日常的な対話と交流を大切にしながら、保護者との信頼関係の構築に努めます。

(10) 子育て支援

年間を通じて絵本の貸出し、園庭開放、育児相談、交流保育、育児講座を実施します。地域の方々との交流を深めるとともに、地域における子育て支援の充実に努めます。